

(広報資料)

平成29年度 交通事業決算概要

平成30年8月2日
京都市交通局

担当:交通局 企画総務部 財務課(863-5080)

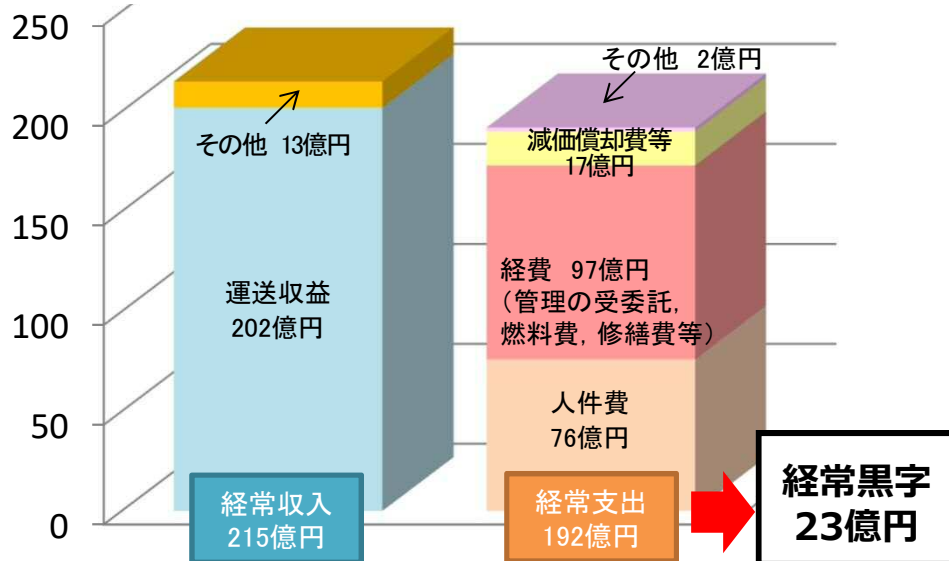
自動車運送事業

1 決算概要

- 市バス・地下鉄中期経営方針に基づき、お客様の更なる利便性の向上を図る取組を積極的に推進**
 - ・予算に掲げた主要事項である安全運行の推進や、喫緊の課題である市バスの混雑対策、路線・ダイヤの充実等を着実に実施し、お客様の更なる利便性の向上を図る取組を積極的に推進
- 1日当たりのお客様数は、前年度比5千人増の36万8千人(地下鉄と合わせて75万5千人)**
 - ・路線・ダイヤの充実等に加え、「地下鉄・市バスお客様1日80万人」の達成に向けた全庁挙げた取組や民間と行政の共汗による取組の推進により、前年度決算に比べて、1日当たりのお客様数は5千人増、運送収益は3億円の増収
- 経常損益は23億円の黒字を確保、利益剰余金を市バス事業の充実、地下鉄会計への支援に活用**
 - ・経常損益は、23億円の黒字を確保し、26年度以降4年連続で「自立した経営」を堅持
 - ・利益剰余金(27年度確定:24億円)は、市バス事業の充実に活用(11億円)するとともに、地下鉄会計の経営健全化を財政面から支援するために出資(12億円)したほか、一般会計へ配当(1億円)
- 今後は、多数の車両更新が必要になるなど、厳しい経営状況**
 - ・今後10年間で、200億円を超える更新費用(530両の車両更新 140億円など)を要するほか、全国的なバス運転士・整備士不足による委託先を含めた人材難や経費増が見込まれるなど、厳しい経営状況へ

[市バスの車両更新がこれまでよりも倍増]
 26両 / 年 → 53両 / 年
 H21~H28(8年)で207両 H31~H40(10年)で530両
 (増車44両分を含む)

(1) 経常損益の状況



(2) 決算の主要数値

	28年度	29年度	差引増△減
在籍車両数	808両	818両	10両
走行キロ数 〔1日平均〕	86.6千km	87.5千km	0.9千km
経常損益	27億円	23億円	△4億円
利益剰余金 (うち処分方針確定済額)	61億円 (34億円)	85億円 ※(61億円)	24億円 (27億円)
年度末企業債残高	54億円	44億円	△10億円

※ 28年度活用:10億円, 29年度活用:24億円, 30年度活用予定:27億円
 (30年9月市会に、28年度活用した利益剰余金を資本金に組入れる議案と29年度活用した利益剰余金の処分議案を提出予定)

(3)お客様数の状況

ア 市バスお客様数内訳

(単位：千人/日，%)

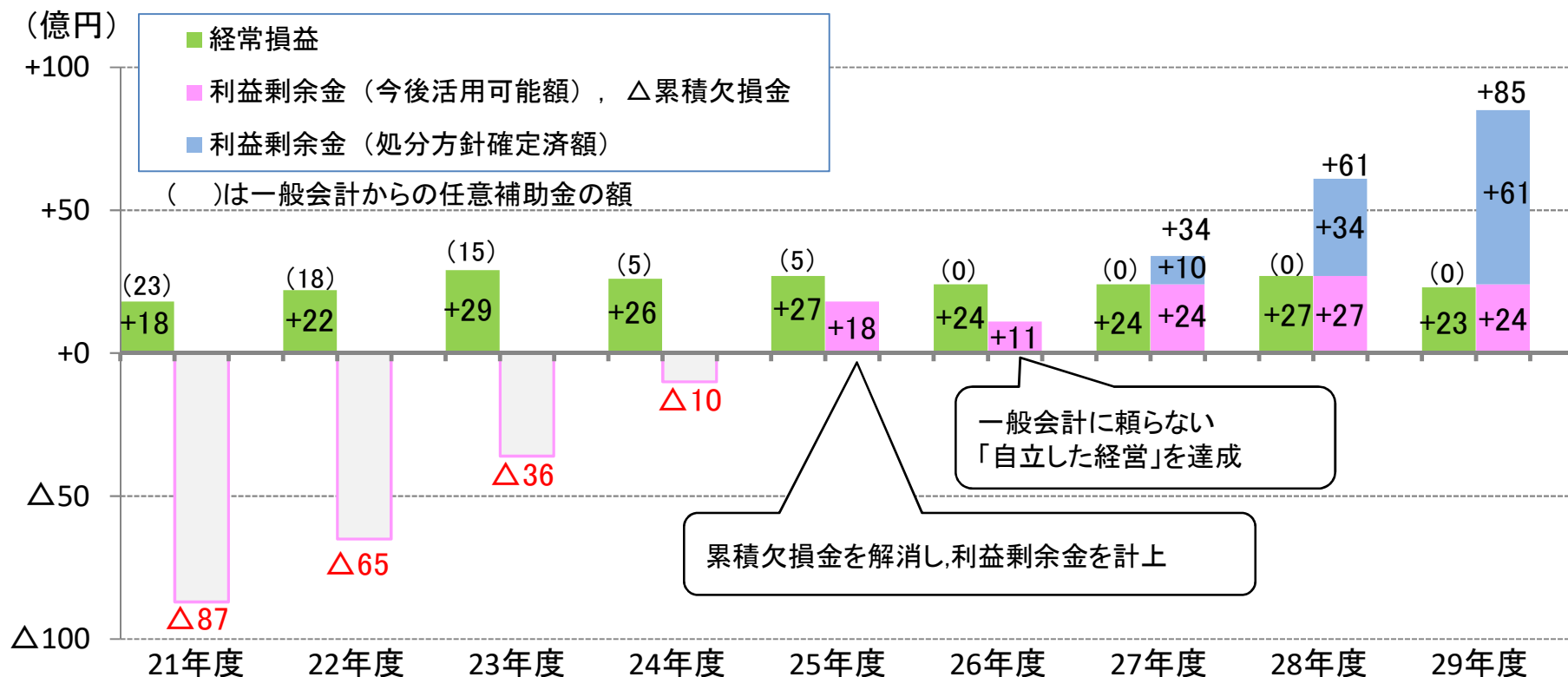
	28年度	29年度	増減	増減率
市バス全体	363	368	5	1.4%
うち定期	87	90	3	3.9%
うち定期外	203	205	2	0.9%

イ 地下鉄・市バスお客様数

(単位：千人/日，%)

	28年度	29年度	増減	増減率
地下鉄	379	387	8	2.1%
市バス	363	368	5	1.4%
合計	742	755	13	1.8%

(4)経常損益及び利益剰余金等の推移



2 主要事項

(1) 路線・ダイヤの充実(混雑対策や利便性の向上)

【29年3月実施の新ダイヤ】

ア 混雑緩和に向けた主要系統の運行拡充

(ア)西大路通(204号,205号系統),東山通(206号系統)の増便

(イ)京都駅と主要観光地を結ぶ急行系統(二条城・金閣寺
エクスプレス)の通年運行

イ 通学系統の輸送充実

立命館大学, 京都産業大学,
佛教大学に係る系統の増便

ウ 早朝・夜間時間帯の運行充実

回送バスの営業運行による早朝及び夜間時間帯の運行の充実等

エ 便利に御利用いただける路線・ダイヤ編成

(ア)鉄道との乗継利便性の向上

京都岡崎ループを四条河原町経由へ経路変更など

(イ)同一区間を運行する系統(26号, 28号系統)のダイヤ
調整による乗車機会の拡大

オ 地域主体のモビリティ・マネジメントと一体となった
路線・ダイヤの拡充

北区西賀茂北部(柘野)地域
本格運行化



運行を拡充した204号, 206号系統

【30年3月実施の新ダイヤ】

ア 通勤・通学系統等の増便

(ア)朝ラッシュ時間帯の増便

西大路通(205号系統), 四条通(3号系統)

(イ)大学への通学輸送の充実

・立命館大学, 京都産業大学, 佛教大学に係る系統の更なる増便
・京都駅と京都大学・京大病院を結ぶ「京大快速」の新設

イ 地域主体のモビリティ・マネジメントと一体となった
路線・ダイヤの拡充

増便: 北区西賀茂北部(柘野)地域, 西京区福西学区, 松陽学区
新たな運行: 上京区仁和学区(9~10回/日(毎日))

ウ より便利に御利用いただけるダイヤ編成

(ア)夜間時間帯の運行の更なる充実

四条界わいからの最終バスの時刻繰下げ, 深夜バスの
運行日の拡大など

(イ)増便やダイヤ調整による地下鉄をはじめとする鉄道との
乗継利便性の向上



試行運行を開始した52号系統(上京区仁和学区)

(2) 魅力あるバス待ち環境の創出

- ア 周辺部等におけるバス停上屋の整備など(43箇所)
- イ ソーラー式バス停照明の設置(151箇所)
- ウ 地域や民間事業者の皆様の御協力によるバス待ち空間「バスの駅」の設置(11箇所)
- エ インターネットを活用したバス接近表示器の設置(15基)
(更なる増設に向けた電源確保等の調査を完了。30年度中に整備計画を策定予定)
- オ ベンチの整備推進



バス停上屋の整備
(加茂川中学前)



月桂冠株式会社の御協力による
「バスの駅」(西大手筋)の設置

(3) 安全運行の推進

- ア 有責事故件数の削減に向けた安全運転訓練車の導入
- イ 車椅子を御利用のお客様のより安全な御乗車のための新型車椅子固定ベルトの導入
- ウ 前方確認補助のための車外ミラー増設, 車両路肩灯のLED化

過去最少を更新

有責事故件数のさらなる削減(28年度:84件 → 29年度:76件)
※10万km当たり 28年度:0.266件 → 29年度:0.238件(△10.5%)

(参考)主な公営交通の10万km当たりの有責事故件数(28年度実績)
東京都:0.72件, 大阪市:0.61件, 神戸市:0.45件
※公表されている事故件数と走行距離を基に算出

(4) お客様サービスの拡充等

29年4月~

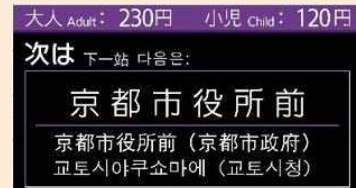
- ア IC定期券及びICカードによる乗継割引の運用開始
- イ 上賀茂・西賀茂地域の均一運賃区間の拡大 29年3月~
- ウ 車内案内表示のためのモニター増設及び多言語化
- エ バス停などで市バスの乗り換え案内などを行う京都市バス“おもてなしコンシェルジュ”の活動拡充
- オ 北大路バスターミナルのオートドア改修, 各のりばの案内表示の多言語化
- カ 混雑緩和に向けた「前乗り後降り」方式の実証実験を実施
- キ バス一日券の価格適正化及び地下鉄・バス一日券等の値下げ

30年3月発売開始

バス一日券 500円→600円

地下鉄・バス一日券 1,200円→900円(二日券 2,000円→1,700円)

- ク 今後10年間の新たな「経営ビジョン」の策定に着手



車内案内表示モニターの増設及び多言語化



「前乗り後降り」方式の
実証実験

3 財政状況（前年度決算からの増減）

（税抜額。ただし、資本的収支は税込額）

区 分		28年度決算(A)		29年度決算(B)		差引増△減(B-A)	
		億	百万円	億	百万円	億	百万円
経常損益	営 業 収 益	209	83	212	66	2	83
	う ち 運 送 収 益	199	55	202	45	2	90
	営 業 外 収 益	2	25	2	53		28
	う ち 一 般 会 計 補 助 金		1		3		2
	う ち 長 期 前 受 金 戻 入	1	83	1	96		13
	収 入 計	212	08	215	19	3	11
	営 業 費 用	183	01	189	96	6	95
	う ち 経 常 人 件 費	70	37	71	77	1	40
	う ち 退 職 給 付 引 当 金 繰 入 額	3	81	3	84		3
	う ち 経 費 (管 理 の 受 委 託 ・ 燃 料 費 ・ 修 繕 費 等)	93	52	97	44	3	92
う ち 減 価 償 却 費 等	15	31	16	91	1	60	
営 業 外 費 用	2	20	2	54		34	
支 出 計	185	21	192	50	7	29	
差 引	26	87	22	69	△ 4	18	
特 別 損 益		0		1	17	1	17
再 差 引 (純 損 益)		26	87	23	86	△ 3	01
利 益 剰 余 金		61	26	85	12	23	86
う ち 処 分 方 針 確 定 済 額		34	39	61	26 ※	26	87
資 本 的 収 支	収 入	5	80	3	98	△ 1	82
	う ち 企 業 債 金	4	81	3	63	△ 1	18
	う ち 補 助 金		53		34	△	19
	支 出	36	08	48	15	12	07
	う ち 建 設 改 良 費	23	59	21	18	△ 2	41
	う ち 企 業 債 償 還 金	12	49	13	87	1	38
	う ち 地 下 鉄 会 計 出 資 金		0	11	90	11	90
	う ち 一 般 会 計 納 付 金		0	1	20	1	20
差 引	△ 30	28	△ 44	17	△ 13	89	
資 金 剰 余 額	41	72	34	04	△ 7	68	
年 度 末 企 業 債 残 高	53	81	43	57	△ 10	24	

※ 処分方針確定済額 6,126百万円の内訳は、次のとおりである。

28年度活用:1,058百万円, 29年度活用:2,381百万円, 30年度活用予定:2,687百万円

(30年9月市会に、28年度活用した利益剰余金を資本金に組入れる議案と29年度活用した利益剰余金の処分議案を提出予定)

高速鉄道事業

1 決算概要

○ 経営健全化計画より1年前倒して経営健全化団体から脱却の見通し

目標の10億円突破

・経営健全化計画に基づき、安全対策やお客様サービスの向上に努めつつ、増客の取組や駅ナカビジネスの積極的展開による増収策、コスト削減等の経営健全化の取組を推進してきたことにより、計画より1年前倒して健全化団体から脱却の見通し

○ 1日当たりのお客様数は、38万7千人(市バスと合わせて75万5千人)

・地下鉄・市バスのネットワークを活用し、ひとと公共交通優先のまちづくりに一層取り組むため、「地下鉄・市バスお客様1日80万人」に向けた全庁を挙げた取組や民間と行政の共汗による「チーム『電車・バスに乗るっ』」の取組の推進により、前年度決算に比べ、8千人増加し、運輸収益は4億円の増収

○ 経常損益は、3年連続の黒字(2億円)となるも多額の企業債等残高や累積資金不足

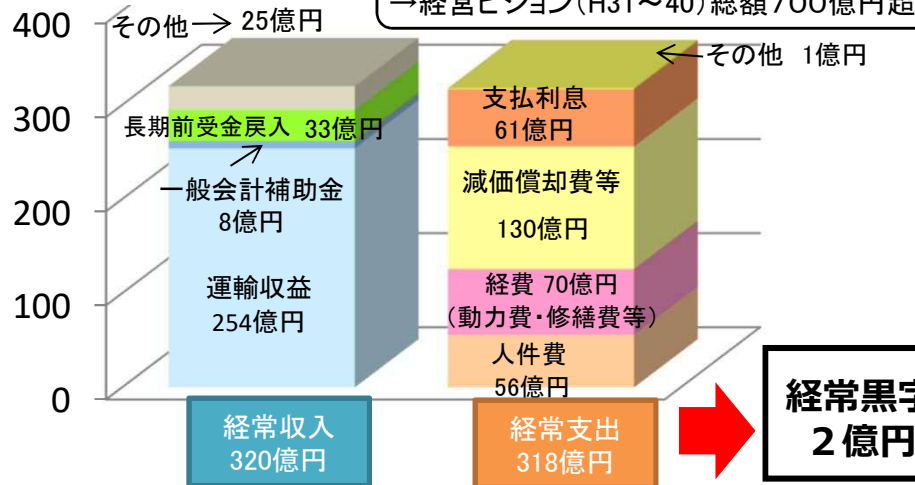
・経常損益は、一般会計からの補助金8億円を含めてではあるが、3年連続となる黒字(2億円)を計上
 ・しかし、依然、企業債等残高見込は3,629億円、累積資金不足は309億円にのぼる全国一厳しい経営状況

○ 今後も引き続き、厳しい経営状況

経営健全化対策出資金 ⑳～㉑総額640億円(うち、㉑51億円)
 このほか、高資本費対策補助金(任意補助金)㉒～㉔総額11億円

・健全化団体脱却後は、国制度に基づく一般会計からの経営健全化対策出資金の繰入れもなく累積資金不足は増加
 ・今後10年間で、烏丸線の新造車両や両線の設備更新に700億円を超える多額の費用を要するなど引き続き厳しい経営状況

(1) 経常損益の状況



(2) 決算の主要数値

金利上昇のリスク

	28年度	29年度	差引増△減
在籍車両数	222両 [37編成]	222両 [37編成]	—
走行キロ数 [1日平均]	57.1千km	57.1千km	—
経常損益	16億円	2億円	△14億円
現金収支 (償却前損益)	106億円	94億円	△12億円
資金不足比率	—	—	—
年度末企業債等残高	3,764億円	3,629億円	△135億円
累積資金不足	309億円	309億円	—

(3)お客様数の状況

ア 地下鉄お客様数内訳

(単位：千人/日、%)

	28年度	29年度	増減	増減率
地下鉄全体	379	387	8	2.1%
うち定期	148	153	5	3.6%
うち定期外	208	211	3	1.4%

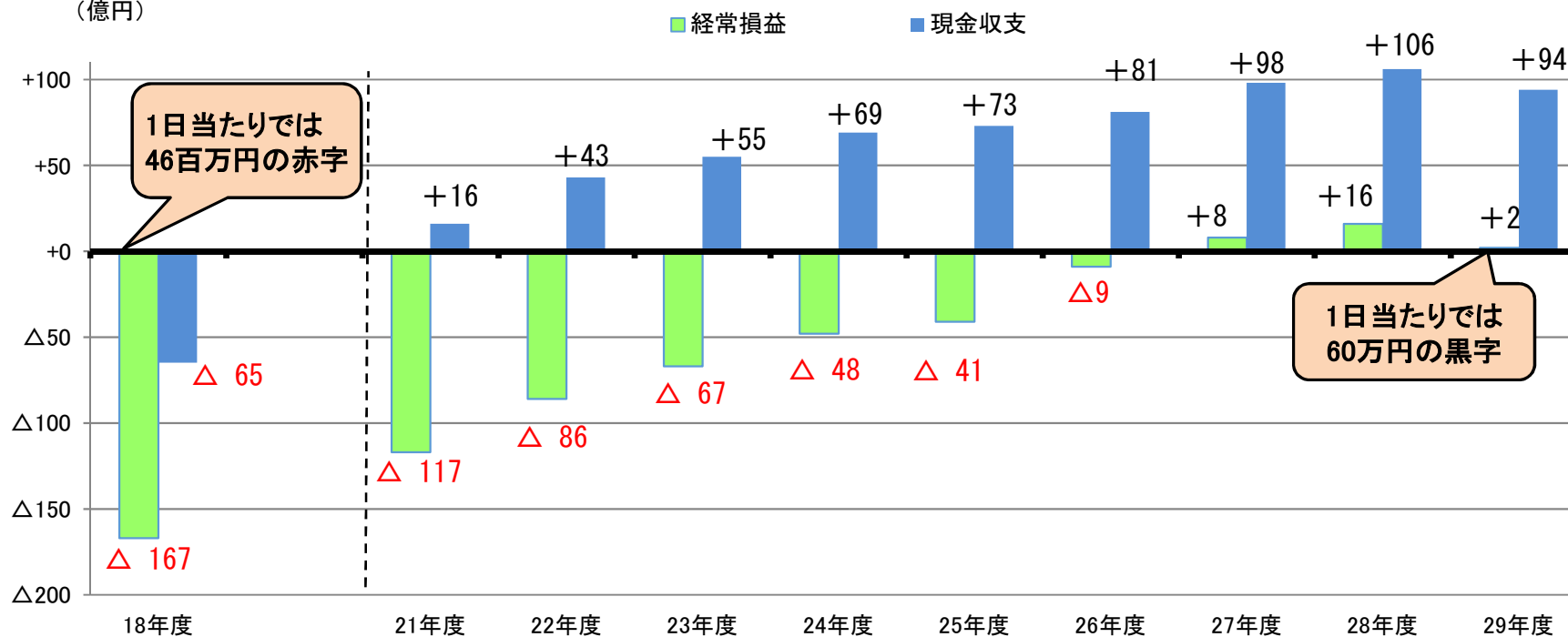
イ 地下鉄・市バスお客様数

(単位：千人/日、%)

	28年度	29年度	増減	増減率
地下鉄	379	387	8	2.1%
市バス	363	368	5	1.4%
合計	742	755	13	1.8%

(4)経常損益等の推移

(億円)



2 主要事項

(1) お客様増加策

8年ぶりとなる
ダイヤ改正

ア 増便によるダイヤの充実(30年3月実施)

(ア) 朝夕の通勤・通学時間帯における烏丸線の増便(4便)

(イ) 京阪京津線のダイヤ改正に合わせ、京阪車両の乗入れについて京都市役所前駅止に換え、太秦天神川駅行を増便(25便)



イ「地下鉄・市バスお客様1日80万人推進本部」、民間と行政の共汗による「チーム『電車・バスに乗るっ』」における公共交通を活用した取組の推進

(ア) 沿線施設や区役所・支所と連携したイベントの開催など、全庁を挙げた取組の推進

(イ) 駅ナカビジネスの積極的展開や、大学・企業と連携した駅ナカアートプロジェクトの充実など、駅の魅力向上等

(ウ) 沿線区役所とも連携した地下鉄東西線開業20周年記念イベントの開催



チーム「電車・バスに乗るっ」の取組
「ZOOっと一緒！地下鉄パンまつりin岡崎」



地下鉄東西線開業20周年記念イベント

(2) 駅ナカビジネスの積極的展開

ア 「コトチカ北大路」の開業(30年3月)

2店舗

イ 新たな駅ナカビジネスの展開に向けた各駅の総点検



コトチカ北大路

駅ナカビジネス収入 目標の10億円突破

(3) 安全対策等の推進

ア 烏丸線ホーム車掌用モニター設備の増設による安全対策の強化(北大路駅、今出川駅)

京都市役所前駅
東野駅

イ 車両扉指詰め警告テープの設置(全車両)

ウ 駅出入口への止水板等の設置による浸水対策の強化

エ 地下鉄車両車内灯及び駅照明のLED化の推進



ホーム車掌用モニター設備の増設



駅出入口への止水板の設置

(4)お客様サービスの向上

ア 地下鉄・バス一日券等の値下げ(30年3月発売開始)

一日券 1,200円→900円
二日券 2,000円→1,700円

イ ICカード利用の環境整備

(ア)IC定期券及びICカードによる乗継割引の運用開始

(イ)地下鉄と他社とのIC連絡定期券の拡充 29年4月

JR西日本、阪急…30年3月

(ウ)無人改札口へのIC対応型
多機能インターホンの設置

今出川駅、烏丸御池駅



IC対応型多機能インターホン

ウ 外国人観光客へのサービスの向上

(ア)利用者に分かりやすい駅構内案内サインの整備推進

(イ)車内案内表示装置等の4箇国語対応の推進

29年度 烏丸線 5編成, 東西線 4編成

全駅
整備完了

車内案内表示装置等の4箇国語対応



エ トイレのリニューアル

(ア)トイレのリニューアル(五条駅) 30年2月供用開始

(イ)床面コーティング等によるトイレの美化推進(全駅)

オ 優先座席エリアのリニューアル(全車両)



五条駅トイレのリニューアル



優先座席エリアのリニューアル(全車両)

カ 烏丸線車両の新造に係る懇談会の開催

(5)一般会計等からの支援及び将来を見据えた計画の策定に着手

ア 経営健全化対策出資金の繰入れ(51億円)

イ 市バス事業からの出資金の受入れ(12億円)

ウ 今後10年間の新たな「経営ビジョン」策定に着手

3 財政状況（前年度決算からの増減）

（税抜額。ただし、資本的収支は税込額）

区 分		28年度決算(A)		29年度決算(B)		差引増△減(B-A)	
		億	百万円	億	百万円	億	百万円
経常損益	営 業 収 益	274	07	278	67	4	60
	うち運輸 収 益	249	60	253	66	4	06
	営 業 外 収 益	60	16	41	08	△ 19	08
	うち一般 会計 補助 金	26	45	7	78	△ 18	67
	うち長期 前受 金戻 入	33	25	32	89	△	36
	収入計	334	23	319	75	△ 14	48
	営 業 費 用	249	42	255	41	5	99
	うち経常 人件 費	51	52	52	46		94
	うち退職 給付引当 金繰入 額	2	46	3	09		63
	うち経費（動力 費・修繕 費等）	69	02	69	84		82
	うち減価 償却 費等	126	42	130	02	3	60
	営 業 外 費 用	68	73	62	22	△ 6	51
	支出計	318	15	317	63	△	52
差 引	16	08	2	12	△ 13	96	
現 金 収 支	105	88	94	06	△ 11	82	
特 別 損 益		0		0		0	
再 差 引（純 損 益）	16	08	2	12	△ 13	96	
△ 累 積 欠 損 金	△ 3,077	14	△ 3,075	02	2	12	
資本的収支	収 入	256	43	334	32	77	89
	うち企 業 債 金	167	21	242	19	74	98
	うち補 助 金	8	14	5	92	△ 2	22
	うち出 資 金	80	91	85	77	4	86
	（経営健全化 対策出資金）	58	78	51	14	△ 7	64
	（市バス 会計出資金）		0	11	90	11	90
	支 出	371	51	435	24	63	73
	うち建 設 改 良 費	94	79	95	88	1	09
うち企 業 債 償 還 金	251	17	329	17	78	00	
差 引	△ 115	08	△ 100	92	14	16	
△ 累 積 資 金 不 足	△ 309	18	△ 309	19	△	01	
資 金 不 足 比 率		-		-		-	
年 度 末 企 業 債 等 残 高	3,763	84	3,628	97	△ 134	87	